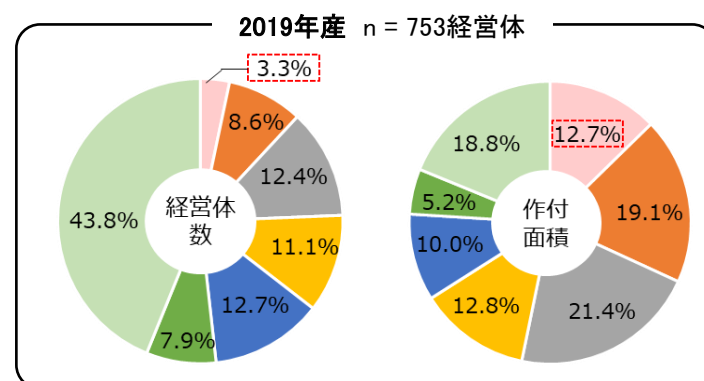
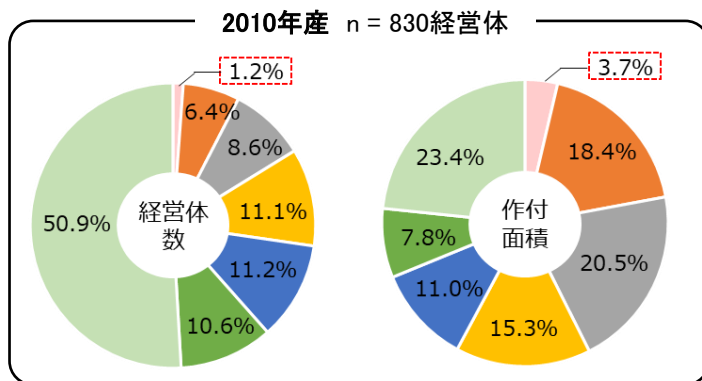


稲作農業の体質強化に向けた超低コスト産地育成事業 <生産コストの現状・課題>

- コメの生産コストについて、60kg当たり1万円未満を達成している生産者は増加傾向にあるが、微増程度。
- また、担い手等を中心に規模拡大が進展し、全国的にスマート農業等の新技術の知見の蓄積が進む一方で、コスト低減の取組が産地内外に浸透しない、担い手に条件の悪い圃場が集積している、新技術の導入は産地の実情を踏まえたきめ細かな検討・精査がなければ、容易には導入が進まないなどの課題。

- 生産コスト 1万円/60kg未満を達成している生産者は少なからず存在し、増加している
→ 点的な動きであり、産地内外に低コスト生産が広がっていない(コスト低減対策の肝は生産者にとって競争力の源泉)



(出典)農林水産省統計部 「農業経営統計調査のうち 農産物生産費統計(個別経営)」

- 大規模生産者など担い手に水田が集積しつつある → 条件の悪い圃場が集まり、生産性向上が阻害されている

認定農業者がいる15ha以上の個別経営における水稲作付圃場

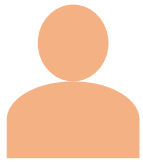
	2013年	2019年
全圃場枚数	76.1枚	91.7枚
未整備又は10a未満の圃場枚数	18.7枚(24.6%)	31.9枚(34.8%)
圃場面積	112.2a	196.5a

(出典)農林水産省統計部「農業経営統計調査のうち農産物生産費統計(個別経営)」

- スマート農業や様々な技術の知見・実証成果が全国的に蓄積されつつある
→ その導入には産地の実情を踏まえた検討、計画的な取組が必要(技術によっては産地内の合意が必要な場合もある)

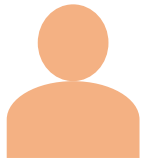
稲作農業の体質強化に向けた超低コスト産地育成事業 〈先進経営体の意見〉

- コスト低減の先進的な経営体からは、
 - ・ コスト低減に決定的な対策はなく、様々な手法を講じていく必要
 - ・ 毎年コスト分析を地域の農家合同で実施しており、他経営体との比較などを通じて翌年度以降の改善に繋げている
 - ・ 圃場の大区画化・集約化が重要であり、そのメリットを生かすための省力化技術(直播栽培等)導入も重要
 - ・ 単収を高めること、品質を上げていくことも重要
- 等の意見。



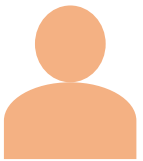
茨城県 Y農場

- **コスト削減には決定的な決め手はなく、小さなことも含め、様々な手を打つ必要がある。**
- 投入資材の費用を抑えるだけでなく、**収量と品質を上げていく視点も重要。**



北海道 N農場

- 道の普及センターや道総研の協力を得て地域の経営者と合同で経営診断を行う部会を開催し、**毎年の生産コスト分析を実施**している。
これを踏まえて、**次年度以降のコスト低減の検討を行う**ようにしている。
- 生産コストの中では**機械費をどう下げるかを一番意識**して低減に取り組むようにしている。



新潟県 H農場

- **基盤整備が大切。**様々な取り組みを講じているが、基盤整備された圃場で効果が発揮される。
- **作期分散に力を入れている。**これにより農業機械の稼働効率が上がり、**機械費は平均の3割以下**に抑えている。

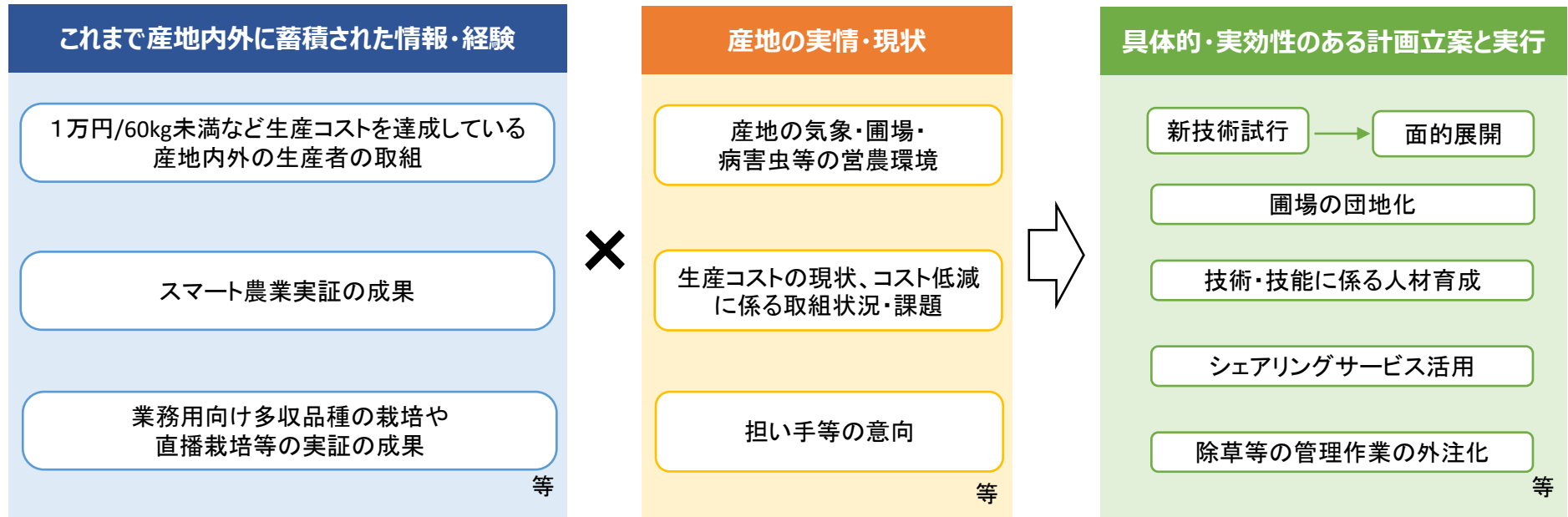


滋賀県 Fファーム

- 大区画化・集約が重要。
- **大区画圃場のメリットを生かすために積極的に直播栽培を導入。**湛水直播と乾田直播の割合は6 : 4。
このことによる**コスト低減効果は大きく、2015年と2018年の10a当たりの作業時間は約3割削減。**
- もっともコスト削減効果が高いのは**収量を高めること。**

稲作農業の体質強化に向けた超低コスト産地育成事業 <超低コスト産地の育成の考え方>

- 輸出等の新たな需要に対応し、大幅なコスト低減を喫緊に、着実に、面的に実現させるためには、
 - ・意欲的なコスト低減の目標を掲げ、関係者一丸となってその実現を目指す産地において、
 - ・産地内外の様々な先進事例・実証成果を踏まえつつ、産地の実情・現状に沿った具体的かつ実効性ある計画的な取り組みが必要。



これらに産地・地域ぐるみで取り組み、生まれ変わろうとする具体の成功事例や課題を積み上げ、そのプロセスを含めて、産地外も含めて横展開

稲作農業の体質強化に向けた超低コスト産地育成事業 〈事業概要〉

- 輸出等の新たな需要に対応するために9,600円/60kg以下など大幅なコスト低減を目指す産地に対し、生産コストの現状、コスト低減に向けた取組状況の把握、課題抽出、低減対策の検討等を取組を総合的に支援する。

輸出拡大等のための超低コスト生産を目指す産地



農業者や行政、農業団体、専門家等による
コンソーシアム

<超低コスト生産に向けた取組>

- 産地や担い手の**生産コストの現状把握・分析**
- コスト低減に係る**取組状況の把握、課題の抽出**
- 必要となる**技術等実証、技術指導等の人材育成**
- **取組成果の検証と改善策の検討**

- ### 支援内容
- 生産コストに関する現状分析・課題抽出、取組方策の検討等に必要となる経費
(会議費、人件費、専門家への謝金、調査費、委託費等)
 - 技術等の実証や人材育成に係る経費
(実証に係る資材購入費や機材リース・レンタル費、技術・技能習得のための研修等受講費等)
 - 成果の検証、産地内の普及等に必要となる経費

〔 定額：上限 1,000万円/コンソーシアム 〕

産地の現状・実情を踏まえて、
コスト低減に向けた様々な取り組みを総合的に支援！



〔例〕 農業コンサルを活用した
課題の見える化

直播栽培等の低コスト技術、
農業支援サービスの実証

農機メンテナンス
等の人材育成

主な要件

- ① コスト低減に取り組む主たる農業者(5経営体以上)平均の**生産コストを9,600円/60kg以下とする成果目標を掲げること**
- ② **コスト低減に取り組む主たる農業者のR3年産における新市場開拓用米の合計作付面積が1ha以上、又はR4年産において1ha以上であること**
- ③ **計画に農地の集約化に係る取組を位置付けて、団地化・集約化を促進すること**
- ④ **コスト低減に向けて、生産コスト分析に係る取組(コストの年次比較、経営体間比較、課題の抽出など)を実施すること**
- ⑤ **コストに関するデータ・成果の農林水産省への提供と活用を許諾すること** 等

事業期間

1コンソーシアムで最長3年間の予定

1年目の成果を踏まえて、2年目以降の継続支援を決定！
(成果重視・重点化型支援)